

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月 27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270201801		
法人名	有限会社 RAIMU		
事業所名	グループホーム 来夢		
所在地	〒858-0923 長崎県佐世保市日野町732番地 (電話)0956-28-4649		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年4月2日

## 【情報提供票より】(平成 20年 1月 28日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤(専任6人、兼務1人)	非常勤 人、常勤換算 7 人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋一部木造 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(期間:1年間)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4)利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	田淵医院・福田外科・たかひら外科・まつぞえ歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長の【力み】と【やらねば】という思いが払拭され、代わりに【自分自身が変らなければ】という思いが芽生えて、現在、職員と施設長は同じ目線でサービスの提供の向上を目指して業務に当たられている。業務をマニュアル化しないで入居者一人ひとりの個性を重視した対応は、入居者に安心と安定をもたらし、入居者にとってホームは(帰りたい場所、我が家)になっている。又、アニマルセラピーの取り入れで犬の【りゅう】は7番目の職員として、入居者に癒しと心の窓を開かせるなど貢献している。玄関を開けると犬の鳴き声と入居者のなだめる声がホームの活気と温かさを演出し、笑顔溢れるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回、改善計画シートの提出はされていないが、口頭で『使いかけの消毒物などの保管・管理』の改善課題を告げられた。取り組みとしては、全職員で話し合い(家庭と同じ条件・環境ではあるが、リスクマネジメントとして把握した対応)で下に収納することで見直し・改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組まれ、改めて自己評価及び外部評価の大切さを感じられている。特に【理念】の必要性和ウエイトの占める割合の大きさに気づかされたことを、繰り返し口にされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	隣に別会社の小規模多機能ホームが新設されており、双方に共通の会議メンバーから3ヶ月に1回の開催要請の打診があり、検討後要請に沿って開催されている。これまでは併設の通所介護施設を会場にされ、取り組み状況を報告し、頂いた意見をサービスに取り入れている。今後は、公民館での開催も検討され、婦人会や老人会等とリンクした会議や警察・消防など公僕の参加も範疇に入れた会議で、地域と和合したホームを目指されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「如何ですか?うちは(ホーム)」など、機会ある毎の問いかけに「満足です」「良くてもらってます」の返事を頂かれているが、入居者・家族の伝えにくい心境も充分周知されている。月1回の担当職員による入居者の生活の様子・暮らしぶりの報告を通して、入居者・家族・職員の馴染みの関係構築の環境を大事に育まれている。エピソードに家族の『最近、母の作ったものを食べていない』の一言に【かけあい】を作ってもらい(変らない母の味)に当事者も懐かしまれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	認知症ケアを実践していく上で(普通の人として生きる)(グループホーム入居は在宅である)ことを念頭において、業務展開をされている。施設長であり経営者の福祉活動を通じた地域との連携が、ネットワーク作りに反映されている。又、近隣の住民や施設、消防署、警察署、小学校などとの関わり、交流の機会も増えている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社理念とは別に、職員と話し合って【尊厳】を具体化したケア目標を、ホーム理念として掲げられている。笑顔・傾聴・生きがいをキーワードに家族・地域の方々と協力しながら安全で安心した生活の支援を目指されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	【その人(入居者)にとって大切なことは何だろう】がケアの原点にあり、入居者一人ひとりの担当職員を中心に入居者の生きがいやニーズ、潜在性、社会性など多方面にアンテナを立て、ライフレビューを繰り返しながら、理念の実践に努められ、入居者にとって、生きがいのある生活の支援に繋がられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	認知症ケアを実践していく上で(普通の人として生きる)(グループホーム入居は在宅である)ことを念頭において業務展開をされている。施設長であり経営者の福祉活動を通じた地域との連携がネットワーク作りに反映されている。又、近隣の住民や施設、警察署、消防署、小学校などとの関わり・交流の機会も増えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長をはじめ職員は外部評価の意義を充分理解されており、第三者の目を通したホームへの気づきを、真摯に受け止め、更に全職員で分析・検討され、自らが納得のいく改善策でサービス提供の向上に活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣に、別会社の小規模多機能ホームが新設されており、双方に共通の会議メンバーから3ヶ月に1回の開催要請を受けられ、基準省令などとも照合・検討し、基本的に要請に沿った開催である。これまでは併設の通所介護施設を会場にされていたが、今後は公民館での開催も検討され、婦人会や老人会などとリンクした会議や警察・消防など公僕の参加も範疇に入れた会議で、地域と和合したホームを目指されている。		

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	見守り、平等、公正中立を唱えている行政の立場を理解した上で、事業所からのアプローチ、積極的な行動で市との双方向の関係が形成されている。長崎県では唯一、認知症キャラバンメイト活動が展開されており、市と連携した取り組みで認知症サポーター育成にも貢献されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	緊急・必要時の随時の連絡はもとより、定期的な「たより」の発行、面会時の報告以外に、入居者担当職員による月1回の電話報告で入居者の健康状態や日頃の生活ぶりなど家族の安心に繋がる取り組みがされている。又、報告を通して入居者・家族・職員の馴染みの関係構築の環境を大事に育まれている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『如何ですか？うちは(ホーム)』など機会ある毎の問いかけに『満足です』『良くしてもらってます』の返事を頂かれているが、入居者・家族の伝えにくい心境も充分周知されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでは職員の異動もなく、離職率も低い安定した職場であったが、職員に在宅を知ってもらうことを目的に介護の展開の習熟に繋がる取り組みとして、数年に1回の異動を考えており、早速、同系列の小規模多機能ホームの4月開設に伴い、一人の職員が異動されることを訪問当日入居者に伝えられた。別れを惜しみながらも入居者が異動先を訪問する日等、和気藹々と話し合う中に継続性を育てられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を通じたスキルアップやキャリアアップの為の資格取得の支援など内部組織での職員育成の充実を図られている。外部研修も適宜受講され、報告書の作成や発表の機会を設けられ、情報の共有に繋がられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流のある数箇所のグループホームの方と医者など専門職が一堂に会して、一つの課題をグループワークし、持ち帰って現場に活かされている。		

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設のデイサービスを体験してもらい、徐々にグループホームとデイサービスを行き来しながら利用開始に繋がられている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	アニマルセラピーを取り入れてからは、これまで以上に共通性や話題性に富んだ会話が展開されている。入居者・職員は共同生活者として、飼われている犬とふれ合う事によって、喜怒哀楽を共有されている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居者の意向の把握はできているが、思いの把握には不足を感じられている。入居者の〈思い〉と〈想い〉の相違に配慮しながら、一人ひとりのその人らしさを理解していくためのプロセスを大事にした取り組みに未知数の可能性を感じられ、現在の課題として自発的に取り組みを表明されている。		入居者の思いの理解は難題であることを前提に、理解していく為のプロセスを大事にした取り組み・課題の職員への浸透と実践に反映される情報の共有に繋がる体制作りが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	毎月1回のケース検討会議で該当する入居者の担当職員が記入したケアプランを立ち上げ、シートを中心に全職員で話し合い介護計画が作成されている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	基本的に3ヶ月に1回の見直しと変化時の随時の見直しがされている。プラン実施経過記録やモニタリングシートの記載でプラン実施の有無の把握はされているが、見直しに繋がる具体的且つ詳細なモニタリングに至っていない。		サービス提供記録に加えて、ケアプランの達成状況、実施に伴う観察・対応記録、評価など日々の記録の工夫と、記録が反映された入居者一人ひとりの現状に即したケアプランの見直しが期待される。

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	飲食店での飲酒や墓参り等、個別・特殊な外出の支援や地域の方の相談事の対応など、事業所の多機能性を柔軟に活かされている。今後は、事業所の多機能性の限界を埋めていく作業に家族やボランティアなど、インフォーマルな支援を融合させた取り組みも検討されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と協力医療機関との医療連携は取れており、適切な医療受診の支援に繋がられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護現場の終末期ケアは大きく分けて身体的ケアと精神的ケアであることを踏まえた中で、職員の希望としてはターミナルまで携わりたい意向を持たれている。又、医療との連携、随時の話し合いによる方針の共有の必要性も周知されている。訪問調査の対話の途中、過去に2人お見送りされたが家族同様の看取りで対応されたことを思い出され、意識的ではないが家族、医療、職員が看取りの方針を共有していたことに気づかれた場面もあった。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	観察と予測のアンテナを上手に駆使した職員の対応で、入居者のプライドやプライバシーが保持されている。又、記録物などの取り扱いも慎重にされており、特定の場所に管理・保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な生活の流れの中に、入居者一人ひとりのその日の体調や気分などを考慮した生活ペースを取り入れている。訪問した日も体調の優れない入居者は、居室で静養されたり、食事の時間をずらすなど入居者の希望に沿った支援をされていた。又、さりげない声掛けや様子見で状態の把握もされている。		

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に、併設のデイサービスで食事が作られており、ホームで作られるのは朝食と昼・夕食の一部とデイサービスの休みの日、おやつである。訪問した日は、入居者と職員が食卓テーブルに集い【イチゴ大福】を作られていた。入居者から『おやつは食べて帰ってね』と笑顔で生き活きとした表情で伝えられた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決められているが、毎日沸かされており、入居者の希望や体調などに合わせた柔軟な支援をされている。訪問した日も、入浴前のバイタルチェックと会話などを通して、入浴支援への環境づくりをされていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アニマルセラピーを取り入れており、ホーム内で飼われている犬の【りゅう】は入居者にとって自由に感情を表せるかけがえのない存在になっている。抱き上げたり、寝めたり、話しかけたりされる入居者の表情には何の駆け引きもない、自然な姿そのものがある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人的に小遣い程度を持たれているお金での買い物や、散歩などの支援をされている。犬の病院受診に同行されたり、犬と一緒に散歩を楽しめる事で外出の機会も増えている。又、ホームに隣接した他の福祉事業所との交流の機会づくりも検討されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を入れて直ぐにリビングがある。日中の玄関への施錠はされていないが、玄関の出入りには目配りをされている。入居者に外出の傾向ある時は、職員が様子を観察しながら、散歩や花摘みに誘う等、環境・気分の転換に繋がる支援で対応されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(人命第一)に入居者参加による有事に沿った火災避難・救出訓練がされている。運営規定の第8章第29条に非常災害対策として、主に火災について記載されており、自然災害対策までは波及していない。		有事の際に備えての手順や持ち出し品、備蓄など防災ガイドラインに沿ったライフラインの確保に繋がる、ホームとしての取り決めと職員への浸透が望まれる。

グループホーム 来夢

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の飲水量の不足を懸念されていたが、食事以外での水分摂取に関して飴玉や黒砂糖をお茶に添えたり、生姜湯など提供されており、健康上制限のない方には工夫を凝らした水分摂取の支援をされている。今後も、高齢期の食生活のポイントの一つである水分の不足に留意した、支援を継続されると良いのではないかと。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の調度品は家庭的なものを取り入れており、ソファコーナーでは、独り居やテレビ観賞、外の景色を眺めるなど、自由な時間を満喫できる環境である。又、リビングの壁には雛節句に因んだ入居者の作品が、装飾品として掲示され季節感にも留意した配慮がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	[居室は入居者一人ひとりの我が家である]が、ホームの方針で、町内の回覧板も各居室に回されている。又、居室は、入居者の生活の様子が反映されており、動線にそった家具の配置やこだわりの持ち込み品などから、入居者にとって安心に繋がる配慮・工夫の支援がされている。		